

国際物理オリンピック 2023 日本大会 開催趣意書

国際科学オリンピックは、高校生を対象とする国際的な科学のコンテストであり、数学、物理、化学、生物学、地学、地理、情報の各分野の国際オリンピックが開催されています。

国際物理オリンピック (International Physics Olympiad : IPhO) は、その第 1 回大会が 1967 年にポーランドで開催されて以来ほぼ毎年開催され、2019 年夏のイスラエル大会で第 50 回を数えています。日本は 2006 年の第 36 回大会から毎年参加しており、派遣された代表選手たちは優秀な成績を収めています。

我が国は物理学の基礎研究ならびに応用研究において世界を先導する国の一つであり、かつ、既に 10 年以上にわたって IPhO に参加していることから、IPhO の日本開催を望む声が近年高まっていました。これを受けて関係者で検討の上、第 53 回にあたる 2022 年の IPhO を日本で開催することとし、準備を進めて参りました。

日本大会の開催は、科学技術先進国である我が国の国際的な責任を果たすものであるとともに、次世代の科学技術人材の育成において大きな意義をもつイベントとなります。我が国の将来の科学技術を担うべき優秀な高校生たちにとっては、オリンピック参加が強いモチベーションとなるとともに、世界の同世代の優秀な若者との交流で大きな刺激を受けると確信しています。また、大会実施組織委員および大会参加国引率役員には物理教育に関わる者も多く含まれることから、その交流や意見交換は各国の物理教育ならびに理数教育のレベル向上に大きく貢献するものと期待されます。

日本大会の開催準備のため、2016 年 4 月に小林 誠 (2008 年ノーベル物理学賞、高エネルギー加速器研究機構特別荣誉教授) を委員長とする組織委員会を発足させ、準備活動を開始しました。また、2018 年 4 月には、一般社団法人国際物理オリンピック 2022 協会 (IPhO2022 協会。会長：小林 誠) を設立して鋭意準備を進めてきたところです。

しかしながら、このたびの新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響により、2020 年に予定されていた第 51 回 IPhO リトアニア大会は開催を断念せざるを得なくなりました。IPhO 本部がリトアニアならびに将来の開催予定各国と調整を行った結果、第 51 回 IPhO リトアニア大会を翌年 (2021 年) に順延し、それ以降の IPhO 大会も 1 年ずつシフトすることとなりました。これに従い、IPhO2022 協会としても、文部科学省はじめ関係各機関と協議の上、第 53 回 IPhO 日本大会を当初予定の 2022 年から 1 年シフトして 2023 年に開催することといたしました。

このように日本大会の開催を 1 年順延したことに伴い、法人および組織委員会の名称も国際物理オリンピック 2023 に変更して取り組むこととしております。日本大会の成功に向けて各界からの力強いご支援をお願い申し上げます。

2020 年 7 月 1 日

一般社団法人国際物理オリンピック 2023 協会会長
国際物理オリンピック 2023 組織委員会委員長
小林 誠